

## 北海道厚真町において学芸員課程の学生が行った 博物館ボランティア活動

Activation of Museum Volunteers by Students of the Assistant Curator Training-Course  
in Asaigakuen University, at The Town of Atuma, Hokkaido

三 野 紀 雄

MINO, Norio

### はじめに

本学の生涯学習システム学部・芸術メディア学科に置かれている学芸員課程では、平成14年度から16年度までの3年間、教科としての博物館実習の一環として、勇払郡厚真町において郷土資料の整理等に関わる博物館ボランティア活動を行った。学芸員課程の学生にとっては、博物館資料を実際に取り扱うことで、学内では経験できない博物館実務を学ぶ良い機会となった。

この報告では、この3年間のボランティア活動、さらに平成13年度の事前準備と平成17年度に学内で実施した実習展示「ボランティア活動で大学と地域とをつなぐ」を加えて、5年間の学芸員課程の活動を紹介している。

### 1. 博物館資料の整理に係わるボランティア活動を始めるに至った経緯

北海道では郷土資料を所蔵する施設は数100に達し、そのうち北海道博物館協会に所属する施設は約170を数える。しかし、それら協会所属の施設でも学芸員の配置が無く、所蔵資料が未整理のままに置かれている施設も数多く見られる。筆者は、本学に赴任して以来、この未整理の資料を学芸員課程での学習のための教材として活用できないものかと考えていた。平成13年度の夏に道内の約70館の博物館施設に出向いて、資料の収蔵及び資料整理の状況について担当者から聴き取り、所蔵資料の活用の可能性について検討した。そんな折に、小樽市の博物館関係者を介して、勇払郡厚真町教育委員会から所蔵資料の整理の依頼があった。

厚真町では昭和40年代の前半から郷土資料の収集が行われ、収集した資料は当初は市街地から約10kmほど離れた上幌内の廃校になった小中学校の校舎に展示され、学校教育などに活用されていた。その後、その一部の資料は本町市街地に開設された青少年センター展示コーナー及び郊外に造成された町立百年公園の屯田兵屋内などの復元建造物内に移され展示された。しかし、大部分の資料は活用されることもなく上幌内の廃校舎に置かれたままになった。年月の経過とともに、しだいに収蔵施設としていたその木造校舎自体も朽ちはじめ、近年は屋根や床が落ちて、収蔵施設としての機能さえ果たし得ない状況になってきていた。

昭和40年代以降も、本町では資料の収集活動は継続的に行われ、収集された資料はこの旧上幌内小中学校と旧幌内小中学校の廃校舎に保管されていた。平成13年になって、旧幌内小中学校校舎の取り壊しに伴い、そこに保管されていた資料は旧幌里小中学校の廃校舎に移された。

このような状況下、教育委員会においては郷土資料の保全がしばしば話題になり、最近になって新しい郷土資料館建設の必要性も叫ばれるようになった。その結果、郷土資料館建設を計画するにあたって町内各所に保管されている資料の全容の掌握が必要となり、平成14年度、平成15年度、平成16年度と資料整理のための予算措置がなされた。しかし、町教育委員会には専門職員である学芸員の配置がないため、本学生涯学習システム学部への業務の依頼となった。平成13年の秋から冬にかけては、同町教育委員会の職員が幾度か本学を訪問されて、平成14年度からの資料整理の方法等、準備に関して打ち合わせを行った。

## 2. 厚真町での博物館ボランティアに係わる活動と参加学生

厚真町において、学芸員課程の博物館実習の一環として、また博物館サークルの活動として町が所蔵する郷土資料の整理作業を行った。手順は第1図に示すとおりで、資料のクリーニング、受入・登録、写真撮影、資料カード及び資料台帳の整備、コンピュータ入力、仮収納庫（旧幌里小中学校校舎）での収納・配架、鉄器の防錆処理、青少年センター郷土資料展示室等の整備といった郷土資料の整理及び活用に関わる基本的な博物館実務である。

この資料整理の活動に合わせて、平成14年度には本学と芸術メディア学科を紹介する「写真パネル展」(於厚真町立青少年センター)と「器楽演奏会」(於町立厚真中学校)を、また平成16年度には芸術メディア学科学生達の創作活動や演奏活動を紹介する「学生作品展」(於厚真町立青少年センター)、「器楽演奏」(於厚真町立スポーツセンター「スタードーム」、町立厚真中学校)を開催した。さらに、平成15年度前期の教科「生涯学習システム演習－生涯学習施設経営－」の中で、厚真町民に対し文化財保存に関するアンケート調査を行い、その結果を基に「厚真町立郷土館建設構想」の策定を試みた。

これらの活動のうち資料整理や町の施設での写真パネル展示は主に博物館実習Ⅰの履修学生と学内の博物館サークルに所属している学生が行った。また、実習展示及び器楽演奏は主に博物館実習Ⅱの履修学生が企画し行った。各年度の参加学生の状況は第1表のとおりである。

第1表 厚真町での活動の概略	
＜事前打ち合わせ＞	
平成13年度 9月～2月	実施要領等について打ち合わせ
＜資料整理＞	
平成14年度	
8月16日～8月23日（8日間）	博物館サークル部員（2・3年生） 健康プランニング学科水野ゼミ生（3年生）
8月26日～9月2日（8日間）	博物館サークル部員（2・3年生）

10月15日～10月18日（4日間）	博物館実習Ⅰ履修者（3年生）
10月22日～10月25日（4日間）	博物館実習Ⅰ履修者（3年生）
<b>平成15年度</b>	
8月6日～8月12日（7日間）	博物館サークル部員（2・3・4年生）
8月16日～8月22日（7日間）	博物館サークル部員（2・3・4年生）
10月14日～10月17日（4日間）	博物館実習Ⅰ履修者（3年生）
<b>平成16年度</b>	
10月12日～10月15日（4日間）	博物館実習Ⅰ履修者（3年生）
<b>&lt;実習展示&gt;</b>	
平成14年度 「芸術メディア学科－写真パネル展－」 於町立青少年センター	
10月15日～10月25日（11日間）	博物館実習Ⅰ履修者（3年生）
平成16年度 「芸術メディア学科－学生作品展－」 於町立青少年センター	
9月10日～9月12日（3日間）	博物館実習Ⅱ履修者他（3・4年生）
平成17年度 「ボランティア活動で地域と大学をつなぐ」 於本学	
8月4日～8月9日（5日間）	博物館実習Ⅱ履修者（4年生）
<b>&lt;器楽演奏・ワンポイントレッスン&gt;</b>	
平成14年度 10月17日（1日間）	博物館実習Ⅰ履修者（3年生）
平成16年度 9月10日（1日間）	博物館実習Ⅱ履修者他（1・2・4年生）
<b>&lt;アンケート調査&gt; 於厚真町本町市街・上厚真市街</b>	
平成15年度 6月21日（1日間）	生涯学習システム演習履修者（4年生）

### 3. 具体的な活動内容

#### 1) 郷土資料の整理

資料整理は第1図に示す手順で行った。整理等の対象となる郷土資料は青少年センターの郷土資料展示コーナー、百年公園に復元された屯田兵屋（妹背牛町から移築）・装蹄所（苫小牧市から移築）・製材所（町内から移築）、旧上幌内小中学校の廃校舎、旧幌里小中学校の廃校舎のそれぞれに展示・収蔵されていた。資料整理にあたって、まず、整理作業場所と収蔵場所を旧幌里小中学校の廃校舎に定め、旧幌里小中学校に保管されている資料から整理を始め、次いで旧上幌内小中学校等に保管してある資料を順次、旧幌里小中学校へ移動しながら整理を行った。展示資料についてはその展示場所で整理、受入登録の作業を行った。

旧上幌里小中学校の校舎では体育館を整理作業場に、洗い場のある小部屋を資料のクリーニング場に、そして空室になっていた職員室と三つの小部屋を収蔵室に割り当てた。資料が仮保管されている教室の整理が進み空室になった時には、その教室を新たな収蔵室とした。また、馬櫓やプラオなど大型資料については資料の整理作業場にしてきた体育館の一部や廊下をそれら大型資料の収蔵場所にした。作業の当初は、不要なさまざまな物品類の屋外への運び出しや校舎内の清掃、さらには大きさや形状を頓着せずに積み重ねられ泥や埃にまみれていた資料のクリーニングに大変多くの時間を費やした。

受け入れ登録を終えた資料は、農業資料、林・漁・鉱工業資料、生活資料、教育資料ごとに



第1図 郷土資料整理の手順

割り当てた収蔵室に収蔵した。各収蔵室には、木製の収納棚を製作し、資料の出し入れが容易になるように工夫した。また、あらかじめ収納室及び収納棚には番号を与え、資料を収納した室と棚の番号を資料カードに記載し、さらにコンピュータにも入力することで今後の資料の出し入れ（出納）が容易になるようにした。さらに、農具類、鋸、斧などの鉄製資料については錆を落とし、防錆処理を施した上で収納・展示した。写真撮影はネガカラーとデジタルカメラで行い、カラープリントは手書きの基本資料カードに貼り付け、基本資料カードはコンピュータに入力した資料カードと資料台帳のバックアップとした。デジタルカメラの写真データは他の資料情報とともにコンピュータに入力し、ファイルメーカー・ソフトを用いて資料台帳と資料カードを作成した。

資料整理は、旧幌里小中学校、旧上幌内小中学校、百年公園の復元家屋、青少年センターに収納・展示されていた資料の順に行ったが平成14年度には約2000点、平成15年度には約1900点、平成16年度には約300点、計4200点の資料の整理を行った。整理作業を終えた郷土資料の種類・構成・概数、及び特徴的な資料を第2表に示す。

第2表 整理を終えた資料点数と特徴的な資料群		
資料群	点数	特徴的な資料群
農・林・漁業・鉱工業・交通用具	1088点	・稲作用具類
生活用具類（教育関係資料を含む）	2834点	・馬具製作用具類
アイヌ民族資料	111点	・氷切り出し用具類
歴史文書・記録写真	145点	・石油採掘関係の記録写真
自然関係（動物剥製など）資料	51点	・アイヌ民族資料（仕掛け弓等）
計	4239点	・教材、教科書など教育資料

## 2) 青少年センター郷土資料展示室及び百年公園の移築建物内の展示整備

厚真町では、町立青少年センターと町立百年公園の2箇所に郷土資料の展示施設が設けられている。青少年センターには図書室、プラネタリウム、郷土資料展示室、町民ギャラリー、研修室、教育委員会事務局の事務室等がある。郷土資料室は1階にあり、1・2階の通路部分にも展示ケースが置かれ、資料展示が行われている。博物館実習Ⅰの中で、展示資料の受け入れ登録に加えて、展示資料のクリーニング、展示ケース・展示台の清掃、展示資料の入れ換え、ネームプレートの作成など展示整備の作業を行った。同様に、百年公園の復元建造物である屯田兵屋、装蹄所、製材所に展示されている資料についても受け入れ登録、資料のクリーニング、展示資料の入れ換え等を行った。

## 3) 実習展示

### イ) 芸術メディア学科を紹介する「写真パネル展」の開催

平成14年の8月から始まった資料整理の活動については、町の広報誌に掲載されたり、町民

が作業場所を訪れたり、あるいはまた町の教育委員が視察するなど広く町民に知られていた。より一層、この活動と本学芸術メディア学科の学生達の創作・演奏活動の様子を地域住民に知ってもらうために、平成14年10月に芸術メディア学科を紹介する「写真パネル展」を町立青少年センターの玄関ホールで実施した。

#### ロ) 美術系学生の創作活動を紹介する「芸術メディア学科—学生作品展—」の開催

この「芸術メディア学科—学生作品展—」は平成15年9月に倶知安町立小川原脩記念美術館と隣接する町立風土館で第1回目を行い、厚真町での開催は第2回目となる。

この展示の開催目的は芸術メディア学科の学生達の創作活動の様子を広く知らしめることと、博物館実習Ⅱの履修者に展示の企画、広報資料の作成、作品の梱包・搬送、展示の設営・撤去などといった博物館の展示に関わる実務を実際に体験させ、学ばせることにある。この実習展の概要と来場者などの実績は第3表に、また展示作品リストと出品者リストは巻末第10表に示している。

<b>第3表 実習展「芸術メディア学科—学生作品展—」の概要と実績</b>	
開催目的：	博物館実習Ⅱの一環、展示制作・設営等を通じて博物館の展示実務を学ぶ
会 場：	厚真町立青少年センター町民ギャラリー
会 期：	平成16年9月10日～9月12日（3日間）
展示構成：	絵画（14点）、グラフィック（造形 8点）、コンピュータグラフィック（25点）、インテリア設計（5点）、映像（14作品） 合計69作品
展示企画：	博物館実習Ⅱ履修者（4年生22名）
展示設営・撤去：	博物館実習Ⅱ履修者ほか（4年次生9名、3年次生9名）
関連行事：	①器楽演奏（於厚真町立スタードーム、町立厚真中学校） ②ワンポイントレッスン（於町立厚真中学校）
広 報：	①広報資料（ポスター、チラシ）の作成（デザインは博物館実習Ⅱ履修学生が担当） ②学校と公共施設（20箇所）にポスター掲示、チラシ配布の依頼 ③商店（約30箇所）にポスター掲示の依頼 ④広報誌「生涯学習だより」に予告記事の掲載（1回） ⑤防災無線での放送（2回） ⑥青少年センター周辺民家（約200戸）へのチラシ配布
新聞掲載：	平成16年9月11日の「苫小牧民報」に学生作品展と器楽演奏の記事が掲載
見学者数：	134名

#### ハ) 学芸員課程の活動を紹介する実習展「ボランティア活動で大学と地域をつなぐ」(平成17年度大学祭「あ祭」に出展参加)の開催

平成14年度から始めた厚真町所蔵資料の整理作業は、平成16年度の秋にすべての収蔵資料の整理と受入登録の作業を終えた。この間、学芸員課程では資料整理のみならず、厚真町を実習の場としさまざまな活動を行ってきた。これらの諸活動を学内の教員のみならず職員や学生の皆さんに知ってもらうため本報告とあわせて、標記タイトルの実習展を企画・実施した。この実習展示には、厚真町で整理を行った実物資料約40点を借り受け、第4表に示すように④テ-

マ「資料展示－厚真町ではこのような郷土資料を整理しました」に展示した。

#### 第4表 実習展「ボランティア活動で大学と地域をつなぐ」の概要

開催目的：展示を通じて博物館・美術館の実務を学ぶとともに、学芸員課程が厚真町で3年間に渡って行ったさまざまな活動を学内の教員・学生に知ってもらう。

会場：本学6号棟、生物・博物館実習室

会期：平成17年8月5日(金)～8月9日(月)(5日間)

展示内容・構成：

- ①郷土資料整理のボランティア活動が始めるに至った経緯
- ②資料整理活動の概要
- ③資料整理の手順
- ④資料展示－厚真町ではこのような郷土資料を整理しました－
  - ・お父さんやお母さんが子供の頃の電化製品
  - ・いろいろな鋸(のこぎり)
  - ・珍しいレコードと手回し蓄音機
  - ・漁師さんの手作り漁具
  - ・この「絵紙」は…?
  - ・アイヌのハイテク機器「仕掛け弓」
  - ・石墨と石筆
  - ・戦時国債
  - ・クマ避けラッパ……
- ⑤厚真町で開催した「芸術メディア学科－学生作品展－」と器楽演奏について
- ⑥写真で紹介する活動の様子
- ⑦学芸員課程の教育・学習プログラムと、活動のこれから

展示企画：平成17年度博物館実習Ⅱ履修者(第2班10名)

資料借用・展示設営・撤収・資料返却：平成17年度博物館実習Ⅱ履修者(第2班10名)

関連行事：レコード鑑賞「SPレコードを手回し蓄音機で楽しもう」(随時開催)

入場者：約80名

#### 4) 音楽系学生の演奏活動を紹介する「器楽演奏」と「ワンポイントレッスン」の開催

本学の学芸員課程では美術系や情報系ばかりでなく、音楽系の学生も資格取得のために履修している。厚真町では美術系及び情報系の学生は「芸術メディア学科－学生作品展－」を通じて普段の学習成果を発表することができた。同様、音楽系学生にも器楽演奏によって、学習成果の発表機会を与えることができると考え「器楽演奏」を企画し、実施した。

すでに平成14年度においても、教育委員会から依頼され、博物館実習Ⅰに参加していた4名の音楽系学生が町立厚真中学校で同校合奏部員に対し、器楽演奏とワンポイントレッスンを行っていた。

厚真町では、第5表に示すように生活支援施設「ともいき荘」とスポーツセンター「スタードーム」の利用者と町立厚真中学校の合奏部員を対象に器楽演奏をおこなった。また、町立厚真中学校の合奏部員に対してはワンポイントレッスンも合わせて行った。



実習展示「芸術メディア学科—学生作品展—」  
(於 町立青少年センター)



実習展示「芸術メディア学科—学生作品展—」  
(於 町立青少年センター)



実習展示の展示設営



「器楽演奏」(町立スポーツセンター)



町立厚真中学校でのワンポイントレッスン



実習展示  
「ボランティア活動で地域と大学とをつなぐ」



実習展示・借用資料の点検



実習展示の設営



### 第5表 器楽演奏とワンポイントレッスンの概要と実績

開催目的：	本学芸術メディア学科の音楽系学生の学習成果の発表
会場：	①町立スポーツセンター「スタードーム」 ②町立厚真中学校音楽室
開催日：	平成16年9月10日(金)
対象：	①生活支援施設「ともいき荘」及び町立スポーツセンター「スタードーム」の利用者（於スポーツセンター「スタードーム」） ②町立厚真中学校合奏部員（於町立厚真中学校音楽室）
楽器編成：	ユーフォニアム2名、チューバ2名の4名編成
内容：	①器楽演奏（於スポーツセンター「スタードーム」） ②器楽演奏とワンポイントレッスン（於町立厚真中学校音楽室）
来場者：	①約40名（於スポーツセンター「スタードーム」） ②約30名（於町立厚真中学校音楽室）

#### 5) 郷土資料館に関するアンケート調査と町立郷土資料館建設基本構想の策定

厚真町では、近い将来、郷土資料館の建設を計画している。今のところ、具体的な郷土資料館構想は立てられてはいないようだが、所蔵している郷土資料の全容を把握し、さらに内容的に欠ける資料の追加的な収集を行った上で、建設構想を立案するものと思われる。

本学の学芸員課程に依頼された業務の中にはこの郷土館建設構想案の策定は含まれていない。しかし、学習の上で良い機会なので、独自に建設構想案を策定することにした。建設構想案を立てる前に、厚真町民が郷土資料の保存や活用に対しどのような意識を有しているかを知るため、学園バスで学生達が厚真町に出向き、調査票を厚真町本町市街地及び上厚真市街地のほぼ全戸に配布してアンケート調査を行った。調査結果を第6表に、またその結果を基に履修学生の一人が立てた建設のための基本的構想の一例を第7表に示す。

なお、このアンケート調査と建設構想の立案は、学芸員課程の履修教科には含まれていない「生涯学習システム演習－生涯学習施設経営－」の演習の中で行った。この教科の履修者の大半は学芸員課程の履修者であり、また厚真町での博物館ボランティアの活動にも参加していた。

アンケート用紙の作成に当たって、当初はその質問項目をより具体的なものとしたと考えたが、町教育委員会との十分な連携がとれず、やや中途半端な設問の設定となった。先にも述べたが昭和40年代に市街地から10kmほど離れた上幌内の小中学校に、またその後には町立青少年センターに郷土資料室を設置している。それらに対して町民がどのような認識を持っているか、またそれらの施設、あるいは町立百年公園にある屯田兵屋などの復元建造物を町民がどの程度見学・利用しているのか、さらに見学しての感想はどうかといった事柄を聴くことは新しい郷土館を建築する上で重要なことと思われる。また、資料整理の過程で厚真町の所蔵資料には厚味がなく、どのような郷土館を建設するかによるけれども、資料の展示にあたって不足する資料がかなりあると感じていた。したがって、今後収集しなければならない資料を町民がどの程度保有し、どの程度寄贈してくれるかを知ることも重要と思われる。それらについての設問を設定し、町民の意見を聴くことができなかつたことは残念であった。

第6表 アンケートの主な調査結果

第6表 アンケートの主な調査結果	
調査票配布地域：厚真町本町及び上厚真市街地 調査票配布方法：各戸配布 調査票回収方法：返信用封筒によって回収 調査票配布数：約600 調査票回収数：72 調査票回収率：約12%	
・郷土資料館は必要ですか 必要 .....45名 必要ない .....12名	
・郷土資料館が必要な理由 自分達の住んでいる地域の移り変わりを詳しく知るために 子供達に昔のことを知らせるために 郷土についてもっと知るために 時代の変化にとまって失われるモノ（文化財）を保存するために 郷土の風土・歴史を未来へ伝えるために 郷土の歴史をまとめ、保存するところが必要だから 子供の社会科の勉強に役立つから など	
・郷土資料館が不要な理由 利用しないから 何処にでもあるから	
・郷土館があれば利用しますか よく利用する .....27名 時々利用する .....14名 あまり利用しない .....19名	
・郷土資料館はどんな目的で利用しますか（複数回答） 展示見学 .....30名      教養を身につける ..... 8名 調査・研究 .....15名      郷土を知るため ..... 6名 来客を案内して .....13名      子供達とのコミュニケーション .....11名 講座などへの参加 ..... 7名      学校・町内会の行事 ..... 2名	
・どのような郷土資料館の建築を望みますか（複数回答） 普段見れない珍しいものが展示されている施設 ..... 6名 町外の人にも誇れる見栄えのする施設 ..... 9名 図書館・児童館・公民館との複合施設 .....21名 郷土の歴史、産業、生活、文化などについて学べる施設 .....35名 郷土を知り、そして郷土愛を育むための施設 .....21名 児童生徒が楽しんで、学ぶことのできる施設 .....15名	
・厚真町がもつ誇れる文化財 世界の蝶のコレクション 地域の伝統舞踊や行事 幌内地区の神楽 軽舞地区に残っているクマ送りの行事 神輿と太鼓 厚真犬	

**第7表 厚真町郷土資料館建設のための基本的な考え方**  
 (「生涯学習システム演習－生涯学習施設経営－」のレポート課題)

**目的・理念**

子供達がつくり、子供達が身近に感じ、子供達が楽しく利用できる郷土資料館

**テーマ**

ふるさとの良さを「発見」し、語り「受け継ぎ」、心豊かな厚真町を「創造」しよう

**キーワード**

世代間の「交流」

**ビジョン**

いつまでも子供達の楽しげな声が聞こえる郷土資料館

**郷土資料館づくりのための留意点**

- ・図書館、児童館との複合施設とする
- ・教育普及活動を継続するために専門職員（学芸員）を置く
- ・収蔵施設の整備と公開、及び町内各所に散在する文化財についてもデジタル情報化に取り組む
- ・ハード及びソフトのバリアフリー化を進める
- ・将来にわたって町民の感心を長く引き止め、また継続的に利用してもらうために、町民に郷土資料館づくりや郷土館資料館運営に参画してもらう
- ・ボランティア（博物館クラブ）を組織する
- ・児童生徒の「ふるさと発見」の場となるように、郷土の歴史や自然に関する講座・講習会・見学会・観察会などを積極的に開催する
- ・児童生徒と高齢者との交流（ともに学ぶ）の機会を設ける
- ・児童生徒をはじめ町民が行う普段の調査研究成果の発表の場とする

**<常設展示>**

1. 自然：位置、気象、郷土の生い立ち、動植物、化石 など
2. 先史時代の人々
3. アイヌの人々
4. 郷土を開拓した人々
  - ・米づくりに携わった人々
  - ・漁業に携わった人々
  - ・造林業、製材業、製炭業に携わった人々
  - ・油田開発や石油採掘に携わった人々
5. 拓殖鉄道の歴史
6. 火力発電と石油備蓄の町
7. 後世に伝えるべき厚真町の文化財
8. 子供達が夢見る50年後の厚真町：5年ごとに展示の内容を更新する

**<収蔵陳列室>**

1. 考古資料の陳列コーナー
2. 昆虫標本の陳列コーナー
3. 郷土資料の陳列コーナー（収蔵施設の開放）

**<私達の部屋>**

1. 「ふるさと発見」：小中学校での「総合的な学習の時間」の成果の発表の場
2. 体験学習室（子供達が遊びながら学ぶ場）
3. 教室・工作室（講座・講習会などを開催する場）
4. 町民ギャラリー（創作活動や調査研究の成果の発表の場）

#### 4. 町として今後収集が必要と考えられる資料

郷土資料館の展示をつくるにあたって、収蔵資料の全体を見渡すと、今後収集が必要となる資料がいくつか見られる。第8表に示す資料は、現在未収蔵で、郷土資料館建設までに収集しておくことが望ましいと思われる資料である。

第8表 郷土資料館建設のために今後収集が必要と思われる資料

##### 1. 生活関係資料

- ・ 台所用具・調理具（まな板、各種包丁、包丁立て、鍋、鍋敷き、鉄製のつば釜、つば釜の台、やかん、こね鉢、すり鉢、手押しポンプ、水がめ、水がめの蓋、ひしゃく等）
- ・ 食に関わる道具（茶箆筥、食器棚、ちゃぶ台、はし・はし立て・茶碗・おわん・湯のみ・皿などの食器類、味がめ・塩つぼ・砂糖つぼ・紅鉢・片口など各種容器類等）
- ・ 衣に関する道具、衣類（和箆筥、洋ダンス、晴れ着、仕事着、普段の着物類、下着類、靴、下駄、裁縫道具類等）
- ・ 住に関する道具（箆、ちり取り、炉箆、火バサミ、炉扇、十能、石炭箱など）
- ・ 仏壇や神棚など信仰に関わる道具類

##### 2. 産業関係資料

- ・ 農耕などに用いる道具（鋤、手鋤、鎌、唐棹、箕、背負子など小型の農具、運搬具、その他）
- ・ 製炭用の道具（炭窯づくりの道具、製炭用の腰鋸、鉋、火かき棒、炭俵等）
- ・ 諸職に関する道具（鍛冶屋・装蹄所、桶・樽屋、柁屋、ざる・籠屋、菓子屋、車・櫓屋、目立て屋、木こりなどの道具類、種々の商店で用いられた道具類）
- ・ 石油採掘に関わる文献、実物資料（複製も必要）
- ・ 拓殖鉄道に関わる文献、実物資料（複製も必要）

#### 5. 今後に向けて

この報告は、平成13年から平成17年までの5年間に渡って本学学芸員課程が博物館実習の一環として行った郷土資料の整理等に関わる博物館ボランティアの活動の記録である。この実習は、学内実習の場所を厚真町教育委員会の収蔵施設に移し、厚真町教育委員会が所蔵する資料を教材として活用することで、種々の博物館実務を学ぶ機会となった。この学芸員課程の実習と夏季休暇中の博物館サークルが行った活動によって、厚真町が所蔵していた未整理の資料約4,200点の整理を終えることができた。

この報告書と実習展示「ボランティア活動で大学と地域とをつなぐ」を開催することで、厚真町での資料整理を中心とした一連の活動を一応終えることとなる。厚真町からこの業務を依頼された当初、学芸員課程では収蔵資料の整理だけではなく郷土資料館建設構想の策定にも関わりたいと考えたが、それは叶わなかった。また、長期的には、何らかの形で、本学部・学科が厚真町の様々な文化活動に関わることができないものかとも考えたが、それについても今回は叶ってはいない。

このように地域と大学をつなぐ道はまだまだ半ばで、当初考えたような段階には至っていない。今後、厚真町に限らず、他地域の郷土資料館建設や文化活動・地域文化の創造にも学芸員課程として関わる機会が与えられることを期待したい。

平成17年度秋季からは、これまでと同様の方法で、夕張郡長沼町教育委員会の資料収蔵施設を借りて博物館実習Ⅰの学内実習を行っている。また、博物館サークルの活動としての郷土資料整理については現在休止中で、今後の活動のあり方については検討中である。

## 謝 辞

今回の活動を行うにあたって厚真町教育委員会幅田教育長、長橋生涯学習課長、森田生涯学習係長、木戸前生涯学習係長、手代木社会教育主事をはじめ厚真町教育委員会の方々、特に生涯学習課の皆様には施設や設備の提供など様々な場面で多大なご便宜・ご協力をいただいた。また、厚真町民の皆様にはいろいろな場所で激励の言葉をかけていただいた、教育委員会及び町民の皆様には厚く感謝を申し上げる。さらに、小樽市在住の制作室「工」主宰の渡辺真吾氏には、この活動の最初から最後まで、学生への指導など多方面でご協力・ご支援をいただいた、深甚より感謝申し上げる。さらに、小樽市博物館の土屋周三館長には、今回の活動を行う切っ掛けを与えてくださるなどご協力をいただいた、厚く感謝申し上げる。加えて、平成14年度のこの活動に参加してくださった健康プランニング学科水野教授、さらに期間中に来町し学生たちを激励してくれた本学教員の方々にも厚く感謝を申し上げる。

そして、巻末の第9表に掲げたが、この活動に参加してくれた「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」の各年度履修学生の皆さん、博物館サークル部員の皆さん、学生作品展及び器楽演奏に参加してくれた芸術メディア学科の音楽系、美術系、情報系の各学年の皆さん、健康プランニング学科水野ゼミ（平成14年度3学年）の皆さんにはこの活動に積極的に取り組んでくれたことを担当した教員として深く感謝するとともに、この実習で体験した学んだことが今後になんらかの役立ってくれることを、また大学生活での楽しい思い出の一つとして記憶されることを心から願っている。

第9表 厚真町での活動に参加した学生の皆さん

<p>&lt;資料整理&gt;            ー平成14年度ー            8月16日～8月23日（8日間）            博物館研究会部員（2年）笹川 誠、（3年）柳原隆次、健康プランニング学科水野ゼミ（3年）進士 愛、中川晴香、小見昭博、小磯浩平、杉村友行、釜田裕己、小松美香子、日陰恵理            8月26日～9月2日（8日間）            博物館研究会部員（2年）笹川 誠、山田佳佑、山田修平、上平臣悟、渡邊いくみ、（3年）奥角迪、相原佳那子、工藤祐美子、清水裕子、山下 環、松柳麻路美、五十嵐祐美子、塩尻佳奈子            10月15日～10月18日（4日間）            博物館実習Ⅰ履修者（3年）東 雅史、寺島和宏、米谷直人、五十嵐祐美子、高野友絵、佐川琴美、松柳麻路美、清水水裕子、工藤祐美子、加賀沢生美、辺見諒子、尾形朋美、相原佳那子、山下 環、伊藤絵美、古館直子、梶原麻弓、坂本遥子、永井里科、柴草瑞穂、森絵里子</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>10月22日～10月25日（4日間） 博物館実習Ⅰ履修者（3年）工藤真也、奥角 迪、宮内由佳、中山絵理恵子、阿部弘子、佐藤麻美、佐沢みづき、高橋鏡恵、佐藤佳代子</p> <p>—平成15年度—</p> <p>8月6日～8月12日（7日間） 博物館研究会部員（2年）大道雄也、向山和希、長尾拓茂、藤村奈美、名島亜由美、（3年）笹川誠、渡邊いくみ、堀田未来、（4年）相原佳奈子、岩越純平、奥角 迪、伊藤絵美、工藤祐美子</p> <p>8月16日～8月22日（7日間） 博物館研究会部員（2年）四戸依里菜、多地抄苗、小島沙織、向山和希、長尾拓茂、松長高宏、中山 亮、細川勇介、（3年）笹川 誠、柳原隆次、（4年）岩越純平、山下 環、松柳麻路美、五十嵐祐美子、鈴木千尋</p> <p>10月14日～10月17日（4日間） 博物館実習Ⅰ履修者（3年）青山純子、小保内敏文、小松靖洋、山田修平、山田圭佑、堤 恭子、中島佳恵、羽広雄太、林 真由美、本吉麻奈未、山本亜由美、横山真知子、吉田千草</p> <p>—平成16年度—</p> <p>10月12日～10月15日（4日間） 博物館実習Ⅰ履修者（3年）宇根清代子、四戸依里菜、多地抄苗、大道雄也、向山和希、長尾拓茂、松長高宏、中山 亮、細川勇介、須藤 宰</p>
<p>&lt;実習展示&gt;</p> <p>—平成14年度— 「芸術メディア学科—写真パネル展—」於厚真町立青少年センター 10月15日～10月25日（11日間）博物館実習Ⅰ履修者（3年生31名）</p> <p>—平成16年度— 「芸術メディア学科—学生作品展—」於厚真町立青少年センター 9月10日～9月12日（3日間）博物館実習Ⅱ履修者他（4年）小保内敏文、中島佳恵、本吉麻奈未、羽広雄太、林 真由美、山本亜由美、横山真知子、吉田千草、高柴こずえ、塩尻佳奈子、熊谷槇、秋山拓也、佐沢みづき、渡邊いくみ、堀田未来、熊谷貴英、菊地祐子、佐々木菜那、酒井里奈、柳原隆次、（3年）宇根清代子、多地抄苗、木村香奈子、長尾拓茂、松長高宏、細川勇介</p> <p>—平成17年度— 「ボランティア活動を介して大学と地域をつなぐ」於本学生物博物館実習室 8月5日～8月10日（5日間）博物館実習Ⅱ履修者（4年）宇根清代子、四戸依里菜、多地抄苗、大道雄也、向山和希、長尾拓茂、松長高宏、中山 亮、細川勇介、須藤 宰</p>
<p>&lt;器楽演奏・ワンポイントレッスン&gt;</p> <p>—平成14年度— 於厚真町立厚真中学校 10月17日（1日間）博物館実習Ⅰ履修者（3年）柴草瑞穂、森 絵里子、坂本遥子、東 雅史、加賀沢生美</p> <p>—平成16年度— 於厚真町立スポーツセンター「スタードーム」・厚真町立厚真中学校 9月10日（1日間）博物館実習Ⅱ履修者他（1年）木村大輔、（2年）阿部 進、（4年）菅原雄一郎、本吉麻奈未</p>
<p>&lt;厚真町での郷土資料に関するアンケート調査&gt;</p> <p>—平成15年度— 6月21日（1日間）生涯学習システム演習履修者（4年生）阿部弘子、相原佳那子、伊藤絵美、井上圭太、日陰恵理、進士 愛、清水裕子、藤田秀司、松柳麻路美、渡邊悦彦、山下 環</p>

第10表 「芸術メディア学科—学生作品展—」 展示作品リスト

＜絵画（油彩）＞		
牧田貴典（1年） 「ねむけ」	古家佑介（2年） 「冬の終わり」	市川真衣（4年） 「華」
〃 「高校3年—登校—」	濱 美智子（3年） 「裸婦」	山口美帆（4年） 「逃亡者」
引谷亜沙美（1年） 「花と月」	〃 「アリス」	米倉大輔（4年） 「にげろ」
斉藤芳央（1年） 「月とピエロ」	山崎なお美（3年） 「ココロ踊る」	神谷賢寿（4年） 「我世の春」
〃 「夢の終わり」	秋山拓也（4年） 「時の流れ」	
＜陶芸＞		
鈴木幸恵（3年） 「花器」	渡邊いくみ（4年） 「土葬のとき」	大石圭介（4年） 「天目釉長壺」
＜コンピュータグラフィック＞		
—ポストカード「夏」—	藤田由香（3年）	成川雄太（4年） 「旭山動物園」
池田美保（3年）	三春詩織（3年）	枳殻潔佳（4年） 「根室」
大和田佑香（3年）	向山和希（3年）	土谷有香（4年） 「モエレ沼公園」
木村勇騎（3年）	—ポスター 「私の町・町自慢」	久々津千絵（4年） 「発寒川」
小島沙織（3年）	中坂美幸（4年） 「江別」	佐々木大輔（4年） 「北海道」
高村紫都子（3年）	新田温子（4年） 「芸術の森」	佐々木菜那（4年） 「仙台・松島」
津本真愛（3年）	石川周平（4年） 「円山公園」	菅原 愛（4年） 「室蘭」
二橋絵美（3年）	中出奏子（4年） 「留萌」	
＜グラフィックデザイン—造形—＞		
毛内康人（2年） 「ダンボール椅子」	山本亜由美（4年） 「咲く」	山本亜由美（4年） 「夢見がち」
酢谷翔一（2年） 「ダンボール椅子」	〃 「園」	山本晋平（4年） 「灯かり」
槇本 陸（3年） 「water flower」	〃 「開」	
＜インテリア設計＞		
山川佳那子（4年）	中山竜一（4年）	金田ゆかり（4年）
「みどりと調和する空間」	「インパクトのある空間」	「インパクトのある空間」
堀内葉子（4年）	青木永理（4年）	
「インパクトのある空間」	「インパクトのある空間」	
＜映像＞		
熊谷 楨（4年） 「Summer cat」	熊谷貴英（4年） 「Photo Story」	青山雄太（4年）
小原知恵（4年） 「万華鏡」	鈴木絵美（4年） 「それは一冊の本」	「怪しさと命の大切さ」
大島有紀子（4年） 「パンダ」	石澤陽子（4年） 「交通安全」	田村周一（4年）
梶田久留美（4年）	〃 「幼児虐待防止」	「Deliciousな1日」
「ものを大切に」	中山竜一（4年） 「虫の運命」	小松靖洋（4年） 「人速」